

京都市市民防災センター「絵本のおはなし会」に参加

～阪神淡路大震災から 31 年、「防災絵本の読み聞かせ」と「ぼうさいダック」を実施～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：東口 嘉仁・三井住友海上火災保険株式会社執行役員 関西地区担当）では、1 月 17 日（土）に京都市市民防災センターが初めて開催する「絵本のおはなし会」に近畿支部防災博士（※1）の金月康子さんと当支部茨木職員が「防災に関する絵本 3 冊の読み聞かせ（※2）」と「ぼうさいダック（※3）」を実施しました。

阪神淡路大震災から 31 年となる 1 月 17 日の午前・午後に合計 4 回実施しました。当時のことを知っている三重県からの参加者が絵本の話に大きくうなずかれたり、幼児から小学生のこどもたちも絵本の話を熱心に聞いていました。また、「ぼうさいダック」では、地震、火事、台風、洪水、雷、津波のカードで、災害や危険から命や体を守るポーズを覚えてもらいました。

阪神淡路大震災から 31 年が経過しましたが、当時を経験した防災博士は、当時の経験を伝えたいという思いが強く、こうした機会を嬉しく感じていました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※1 近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱し、地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。

※2 「板チョコの日」、「ぼくのたんじょうび」、「5 さいのぼうさい」の読み聞かせをしました。そのうち「板チョコの日」は人と防災未来センターが 100 年先の未来まで伝えたい絵本として製作されました。

※3 「ぼうさいダック」は、安全・安心の「最初の第一歩（ファースト・ムーヴ）」を、子どもたちが、実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。

<https://www.sonpo.or.jp/report/publish/education/0008.html>



防災絵本の読み聞かせ



読み聞かせをした防災絵本



火事的时候は「タヌキ」のポーズで
口と鼻を押さえる